

風立ちぬ

つよく
かしこく
あたたかく
立川中学校通信
平成31年1月11日(金)発行

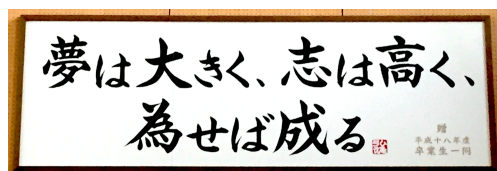
3学期始業式校長式辞

夢と志

志を持つとは夢実現の意味を考えること

新年あけましておめでとうございます。皆さんは、新年を迎えてどんな夢・目標を描いていますか。夢・目標を持ち、志を定めることで、生活の仕方や生き方が整ってきます。新しい年の初めに、「夢と志、目標」のお話をします。今日の話が皆さんの夢・目標の実現の力になればと思っています。

夢と志の違いはなんだと考えますか。



体育館に掲げてある伝統的校訓

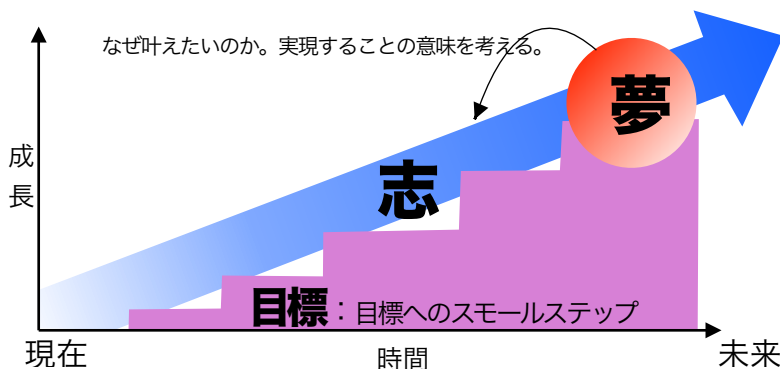
夢とは、将来自分がなりたい姿・自分がやりたいことです。それは実現可能か、不可能かは関係ありません。ですから、体育館にも掲げてあるように、夢は大きい方がいいです。しかも、少し遠い未来に設定した方が夢の吸引力は大きくなります。入学式の時、1年生に向けて、夢と目標を持つことが生活の道標になるという話をしました。3年生の進路希望を見ると、様々な将来のなりたい自分が書かれていました。消防士になる。公務員になる。大学に進学する。高専から大学院大学に進学しエンジニアになるなどです。君たちの可能性は無限大です。大きな夢を抱いて、その実現に向け頑張ってください。

志とは、誰かのため、世の中のために、尽くすこと・命をかける心構えことです。夢が個人の願望、将来の一時点を指すのに対して、志は、他や世の中のために、今の自分から将来に渡って貫くものです。少し話がそれますが、志を考えると、立川地域の偉人・偉業のことが思い浮かびます。

400年前、10年かけて立谷沢川から水を引いて立川余目の土地を潤した北楯大学助利長。150年前、尊王攘夷を実現するため日本を駆け巡った幕末の志士、清河八郎。平成5年、日本初の風力発電を始めた立川の人々。立川には、高い志を貫いた君たちの先輩たちが多くいます。地域のため、世の中のために志を貫いた彼らは私たちの誇りであり、学ぶべきことは多いです。

志は厳しい未来への挑戦ですから、志を持つことはそんなに簡単なことではないかもしれません。しかし、志とは夢を目指す気持ちです。なぜその夢を願うのか、その夢を実現する意味は何か、と夢への意味を明らかにすることで、夢や目標に気持ちが入り、強い意志になり、それが志になるのです。

3年生の進路希望を例にすれば、「将来、消防士になる」という夢を持っている人は、なぜ消防士になりたいのか、その意味は何かと考えます。「人々の命を救いたい。社会に貢献するために消防士になる。」という志になります。



夢・志・目標イメージ図

私の夢は、「生徒にとって、職員にとって、魅力ある学校を作る」です。なぜかという、「生徒に、平成の次の時代を生き抜く力を授けたいから」です。これが私の夢への意味です。皆さんも新しい年の初めに、自分の夢実現の意味について考えてください。そうすることが、夢への気持ちが高まり、自分という人間の立ち位置が定まります。

新しい年が始まりました。今描いている夢・目標の実現に向けて、自らの志を貫き、確実な一歩を踏み出しましょう。

「志」を育む地 立川

厳しく豊かな自然とそこに根ざす文化と共に、志を貫いた人々の歴史が立川にはあります。

難工事の末に完成させた北楯大堰

400年前



北館大学助利長

北楯大堰は狩川城主・北館大学助利長が、1612（慶長17）年、水不足で苦しんでいる村人を救うため、10年間にわたり水源を探し求め、立谷沢川から取水することを計画し、難工事の末、完成させました。

尚、昨年8月、本県の施設で初めて「世界かんがい施設遺産」に登録されました。

理想の実現を目指した幕末の志士

150年前



清河八郎

広い知識を身につけようと18才で江戸に行き、勉学や武道に励んだ。「尊皇攘夷（外国の言いなりにならず、天皇を中心とした強い国づくり）」を目指して、全国の仲間呼びかけました。

道半ばで、幕府の手の者に襲われ命を落としますが、理想の実現に生きた志士です。

悪風をエネルギーに変えた熱い志

平成初期



絵本「フーちゃん
とダン風くん」より

悪風をエネルギーに変える風力発電の取り組み。「日本では風力発電は難しい。夢物語だ。」そんな意見が大勢を占める中で、立川の住民たちと町役場の職員たち、町長の熱い思いが、研究者たちの協力を得て、日本で初めての本格的な風力発電に挑戦し、実現しました。

志が、悪風を逆転の発想で、プラスに転じさせました。

次期生徒会長の新年の抱負 平成31年度 立川中学校 生徒会長 長南 快

僕は新生徒会長として、立川中学校を一人ひとりの個性が輝く学校にしたいと思います。立中も含めほとんどの学校がそうですが、自分に自信のない人や、恥ずかしさで人の後ろにかくれてしまう人が少なからずいると思います。僕はそのような人を減らしたいと思っています。また、立中は年々生徒数が減少しています。それは、短所に思われがちですが、長所だと思います。人数が少ないからこそ一人ひとりの個性が輝けるチャンスが何度もまわってきます。僕自身も失敗を怖れず自分でチャンスをつかみ挑戦することで、全校生に前向きに取り組む姿を見せていきます。また、普段のあいさつや掃除を自分から積極的に行って行きます。いくら色々な事に挑戦しても普段の行動がだらしなかったら誰もついてきません。だから僕は、普段の行動をしっかり行っていこうと思っています。

このように、自分の姿を見せることも、全校生の失敗を怖れず色々な事に挑戦して個性を輝かそう、という意欲につながるのではないかと考えます。そして、そのように多くの人が色々なことに挑戦することが立中が互いの個性を認め合える温かい学校になって原動力になるのではないかと考えています。

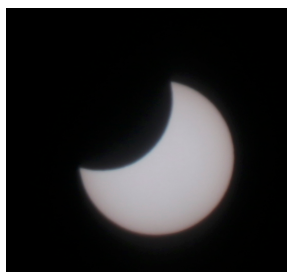
そして、立中生一人ひとりの個性を輝かせるために、発表に関する取り組みを行いたいと思います。人前で発表するというのは、とても緊張することです。ですが、緊張を乗り越えて堂々と人前で発表できるようになることは個性を輝かせるということにもつながると思います。だから発表に力を入れたいと思っています。

今年は、平成から新しい年号に変わる年です。僕たちも新しい歴史を刻むつもりで、毎日の学校生活の中で精一杯取り組み、成長していきたいと思っています。

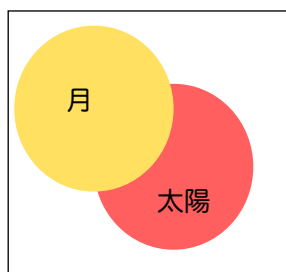
（1月8日、響ホールにおいて、庄内町新春を祝う会が行われ、中学生を代表して発表しました。）

庄内でも雪雲の切れ間から日食が観測できました

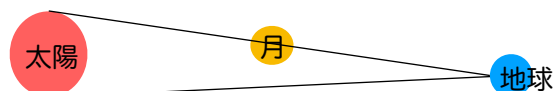
1月6日の庄内の天気予報は雪。小雪がちらつく天気でしたが、左下の写真は雪雲の切れ間から捉えた部分日食です。部分日食は太陽と月、地球が一直線上に並んだときに、地球から見て太陽が月に隠れる現象です。



1月6日10:23鶴岡市森片
中里邸で撮影



太陽と月の視直径は同じ



太陽の大きさは月の400倍も大きいのに、地球から見た太陽と月の大きさは同じに見えます。それは、太陽は月の400倍遠いところにあるからです。

上の図では太陽：月＝2：1で描かれていますが、実際は400:1です。

文責：校長 中里 浩也